別紙様式

令和３年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校におけるミドルリーダー育成方法の開発
事業実施代表者名	校長　青山　眞二
実施附属学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
事業内容 （実施内容について、1,000 字程度で記述）	本校は全道で唯一の国立の特別支援学校として、道南及び道内において研究は研修、教育相談業務においてセンター的機能を果たしてきた。しかし、これまでミドルリーダーとして学校の中核となる職員の育成に関しては課題が残る状況であった。 現在、教職員に求められる能力として、社会の変化に柔軟に対応し、新しい発想で学校を運営していく力が求められる。 また、教師の専門性向上については、全国、全道でも課題に挙がっている。平成２８年に法改正が行われ、大学と教育委員会が一緒になって教員養成に関する研修を考えていくという動きが全国で広がってきた。そのような中で、中堅と言われる教員が、自分自身の立場を理解し、地域でリーダーシップを発揮することがこれまで以上に求められている。 「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」においても、教師の専門性の向上に向けての取組が必要とされている。附属学校の職員として、これまで通りの出来上がった体制で業務を進めるだけにとどまらず、地域の現状や時代の流れに速やかに対応でき、新たな発想を展開できる力を育てることが必要となってくる。 附属学校は、今後大学のリーダーシップのもと、校長を選任化する動きの中で動いている。専任となった校長の学校経営、学校運営が、学部主事や分掌部長の支えの中で円滑に行われ、学校教育目標の達成につながっていく。その体制の中の自分を意識しながら業務に当たることができるため、意識向上を図る研修を計画したいと考える。また、附属学校の職員としての誇りや使命を理解した業務を行うことで、地域でミドルリーダーとして活躍できる人材育成が期待できる。 また、教職大学院で特別支援教育を専門とする学生が入学するようになった際の研修の開発にもつながる方法としていきたい。教職大学院では、授業等の実践の他に、学校体制及び学校と地域との連携に関する研修を行い、勤務校に戻った際には各校のリーダーとしての役割を果たす教員として研修成果を生かすことが期待できる。また、全国とのつながりが深い附属学校の特色を生かし、全国の特別支援学校の取り組みや国の動向についての情報をいち早く実践に生かすこともできる。今後、広域な北海道の

	各地にある特別支援学校からの研修生を受け入れながら、これらの研修内容を提供できると考える。 　そこで、この事業は、学校運営を学校の中核となる学部主事や分掌部長を中心としたミドルリーダーを育てるための研修を「講義」「企画」「視察及び経験」「勤務校での実践」という内容での研修を行いながら、自ら学校を運営していく意義を各教員が持ち合わせることを目的とした。 　附属学校が大学のリーダーシップの基に運営されるためには、校内の組織体制の整備が不可欠である。北海道教育委員会との人事交流で赴任した教員をミドルリーダーとして育成し、附属学校において、地域のリーダーとして働く人材育成をすることで、学部主事や分掌部長として、附属学校の使命を理解した業務の推進が期待できる。
成果と課題 （活動の成果と課題について、500 字程度で記述）	本校のミドルリーダー研修の対象は、学部主事、学部主任及び分掌部長とし、研修を設定した。 　学校経営に関する研修は、元本校副校長であった島津彰氏を招き、学部主事を対象に附属学校における学校経営や運営についての学習会を設定した。各学部主事が抱える課題に対し、協議も交えながらの研修を行った。 　また学部主事は、道内の特別支援学校の視察を行い、各視察校の学校経営・運営の実際やカリキュラムマネジメント等について研修をおこなった。視察した学校は、拓北養護学校、星置養護学校、余市養護学校、苫小牧支援学校、伊達高等養護学校、今金高等養護学校である。 　さらに、年度末（３月を予定）には新年度体制で学部主事および学部主任、分掌部長を対象に、学校経営計画の理解や学校教育目標の実現に向けた具体的取組、さらに附属学校の役割の理解について研修を行う。 　北海道の特別支援教育のリーダーとして復帰する職員を増やすため、ミドルリーダーとして学校経営に自ら参画する意識を高めることが不可欠である。今後は、さらに北海道内の教員との連携を深める研修が必要となる。
今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述）	今後は、教職大学院との連携の中で、授業等の研究の他に、学校体制及び学校と地域との連携に関する研修を行い、勤務校に戻った際には各校のリーダーとしての役割を果たす教員として研修成果を生かすことが期待できる。そのためには、今後教職大学院や大学と附属学校がリーダーを育てるための役割機能について共通理解をもちながら連携をしていく必要があると考える。 　大学のリーダーシップのもと、学校経営、学校運営に、学部主事や分掌部長が十分に参画しながら学校を運営していく体制

	が可能になる。また、附属学校の職員としての誇りや使命を理解した業務を行うことで、地域でミドルリーダーとして活躍できる人材育成が期待できる。 　北海道教育委員会が示す、教員及びミドルリーダーに必要とされる資質に基づいた人材育成が附属学校で行うことができれば、人事交流の活性化につながることも期待できる。
事業の公表状況 （事業をＨＰで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）	

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳　　（附属学校名　附属特別支援学校）

区　　分	予算額	支出実績額	内訳（簡潔に記載すること）
	千円	千円	
旅　　費	１６２		余市養護学校視察（余市）予定 西村祐紀 苫小牧支援学校視察（苫小牧）予定 西村祐紀 伊達高等養護学校視察(伊達)予定 早坂洋次郎
謝　　金			今金高等養護学校（今金）予定 早坂洋次郎
備 品 費			
消耗品費			
そ の 他			